

1 単元・小単元	第1編 人とかがわって生きる 第3章 高齢者とかがわる (8時間)
2 小単元の目標	高齢社会の現状と課題について認識し、高齢者の心身の特徴や生活について理解させる。介護の必要性和介護の基本的な知識を身に付けさせ、高齢者の福祉について理解させるとともに、理想の高齢者像、ライフコースを考察し、そのために今できることを認識させる。
3 本例における生徒の実態	生徒にアンケートを実施したところ、「祖父母と同居している」生徒は26%で、同居していなくても隣居・近居といった「スープの冷めない距離」に祖父母が住んでいる生徒は、36%いる。しかし、祖父母や近所の高齢者と「毎日会話する」生徒は、21%しかおらず、身近な存在であるが日々の生活に追われ、生活時間が合わないこともあり、祖父母とのかかわりは希薄である。また、「認知症と物忘れの違いを知っている」生徒は48%おり、「認知症の予防法を知っている」と答えた生徒は、約26%で、予防法として「人との交流」や「脳トレ」をあげている。高齢者のイメージは、「良いイメージ」と答えた生徒は68%おり、「優しい」「明るい」と感じているが、高齢者と接して困ったこととして、「話している意味が理解できない」「何度も同じことを聞き返される」といった回答が多く、高齢者とのかかわり方に戸惑いを感じている生徒が多い。
4 育てたい資質・能力	グループ学習を通して、他者と関わる力を高め、言葉や概念などを用いて考察する力を養いたい。また、高齢者の心身の特徴と生活について具体的に考えさせ、高齢者が自分の能力や可能性を最大限に伸ばし、家庭や社会での役割を見つけ活躍できる場を確保することが、高齢者自身が生き生きと生活するために重要であることを理解させ、家庭や地域社会で高齢者と関わっていくための能力や態度を養いたい。 誰もが迎える高齢期に向けて、高校生としてどのような準備が必要か考えさせ、生涯を見通して考えさせる力をつけたい。

#### 【参考文献】

- 新家庭総合 パートナースhipでつくる未来 実教出版
- 生活学 Navi 資料+成分表 実教出版
- 新版 福祉のための家政学 ～自立した生活者を目指して～ 建帛社
- 未来の生き方を考える 岐阜県
- 明治安田生命グループ介護情報サイトMY介護の広場  
<https://www.my-kaigo.com/pub/kids/ninchishou/>
- 認知症サポーター養成講座 スーパーマーケット編 全国キャラバン・メイト連絡協議会

単元ごとの指導と評価の計画

【単元】第3章 高齢者とかかわる

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
(1) 高齢社会に生きる私たちの暮らし ・高齢者とかかわる ・高齢社会の状況	○高齢者に関心をもち、高齢者の思いや生活について考えさせる。	・高齢者観察を通して、高齢者のイメージを膨らませる。	1	①高齢者の分野で知りたいこと、考えたいことを具体的に考えている。(ワークシート1- (4))	①高齢者から連想できることを、具体的にイメージできる。(ワークシート1- (1))			・ワークシート1 「高齢者とは」
	○高齢社会の現状や、それが引き起こす影響について理解させる。	・高齢社会の状況について理解する。	1		②高齢化が進む中で、個人や社会全体ができることを考えている。(ワークシート2- (3))		①高齢社会の現状と、その影響について理解している。(ペーパーテスト)	・ワークシート2 「高齢社会の状況」 ・ペーパーテスト ・行動観察
(2) 高齢者を知る ・高齢者の心身の変化 ・高齢者の生活 ・高齢者の生活の課題	○加齢に伴う心身の変化や生活の状況について理解させる。	・高齢者疑似体験を行い、高齢者の心身の状況を理解する。	1	②身体の特徴を意識しながら体験を行うことができる(行動観察)			②高齢者の心身の変化の特徴について理解している。(ペーパーテスト)	・ワークシート3 「高齢者の心身の特徴」
	○高齢者の生活課題とその改善策を考えさせる。	・地域の施設やサービスを調べ、高齢者の生活の実態を把握し、課題を認識する。	1		④地域の福祉サービスの調査を通して、生活課題を見いだしている。(ワークシート4- (3))		③高齢期の生活課題について理解している。(ペーパーテスト)	・ワークシート4 「高齢者の生活課題」 ・ペーパーテスト ・行動観察
(3) 高齢者の自立のために私たちができること ・高齢者の生活を支える介護 ・介護の心と介護技術	○高齢者にかかわる時の心得やコミュニケーションの重要性について考えさせる。	・高齢者の立場を考え、より良い関係づくりのためのかかわり方を考える	1		⑤高齢者の気持ちを考えたかかわり方について考えている。(ワークシート5- (1))	①高齢者と関わる中で、高校生としてできることをまとめることができる。(ワークシート5- (2))		・ワークシート5 「介護の心と介護技術」
	○移動介助の一つである、車いすの介助方法を習得させる。	・車いすの介助の実習を行い、安全で快適な移動を行う技術を身につける。		③実習に意欲的に取り組み、車いすの扱い方を習得しようとしている。(行動観察)		②安全で快適な車いす介助ができる。(行動観察)		・ワークシート6 「車いすの介助」
(4) 豊かな高齢期を迎えるしくみ ・大きな介護不安 ・介護サービスの利用	○介護保険制度のしくみやそのサービスの内容について理解させる。	・介護保険制度について、しくみやサービスの内容について理解する。	1			③介護における課題とその状況を、自分の言葉でまとめることができる。(ワークシート4- (4))	④高齢者の介護のしくみや介護に関する課題について理解している。(ペーパーテスト)	・ワークシート7 「介護保険制度とは」
	○理想の高齢者像、ライフコースを考え、そのためにできることを考えさせる。	・高齢期のライフコースを考え、まとめる。	1		⑥7理想の高齢期のあり方について考えている。(ワークシート8- (2))	④将来高齢期を迎えるにあたって、今のうちでできることをまとめている。(ワークシート8- (3))		・ワークシート8 「高齢期のライフコース」 ・ペーパーテスト ・行動観察

学習指導案

科目名	家庭総合A	使用教科書	新家庭総合 パートナーシップでつくる未来 (実教出版)
単元名	高齢者とかかわる		
本時の主題	3 高齢者の自立のために私たちができること (5時間目/8時間)		
指導観	日本は、急速に高齢化が進んでおり深刻な状況になっている。また、認知症高齢者が2025年には約700万人(高齢者の5人に1人)に増えると推定され、認知症は誰もがなりうる病気である。高齢者の理解だけでなく、福祉のあり方を社会全体で考えていく必要がある。しかし、高校生にとって高齢者に関わる機会は日常生活で少なく、高齢者とのようにかかわったらいかな戸惑う生徒が多い。本時は、高齢者の生活史を知ることによって、高齢者の理解を深めさせたい。また、今後、認知症高齢者の増加が予想され、認知症高齢者を社会全体で支えていく必要があることから、認知症を正しく理解し、具体的な事例を通して、認知症の対応方法を理解させたい。そして、高齢者を自分の将来の問題として考えさせ、家族や地域及び社会の果たす役割を具体的に考えることができるようにしたい。		
本時の目標	高齢者の気持ちを考えた関わり方について考え、高校生としてできることをできることをまとめる。		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 10分	本時の目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を確認する。</li> </ul>	<p>評価について</p> <p>○評価規準 【思考・判断・表現】—⑥ ・高齢者の気持ちを考えた関わり方について考えている。(ワークシート5—(1))</p> <p>&lt;Aの例&gt; ・すぐに否定するのではなく、尊厳をもった態度で接する。高齢者の発言には、まず肯定し、寄り添う。</p> <p>○評価規準 【技能】—① ・高齢者と関わる中で、高校生としてできることをまとめることができる。 ワークシート5—(2)</p> <p>&lt;Aの例&gt; ・認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生活できるように、正しい理解が広がる活動をする。</p>
	<p>1 Microsoft Forms を用いた高齢者クイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者と接するとき大切なこととは何か。</li> <li>認知症の説明で間違っているもの。(3択・復習)</li> <li>認知症による物忘れの特徴。(3択・復習)</li> <li>認知症の祖父がご飯を食べてないと言う時の対応。(3択)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を確認する。</li> <li>スマートフォンがない生徒は、タブレットを使用させる。</li> <li>プリントにも回答したことを記入させる。</li> </ul>	
展開 35分	介護の心と介護技術	<p>2 高齢者と接するとき大切なことについて確認する。(5分)</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低い声でゆっくり話す</li> <li>笑顔で接する</li> </ul>	<p>&lt;Bを実現するための指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを豊かにする方法として生活史を語ってもらうことやその効果を知り、回想法を紹介する。</li> </ul> <p>&lt;Cへの手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視し、何も行ってない場合は、具体的な例を示して考えられるように助言を行う。</li> </ul> <p>&lt;Bを実現するための指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が認知症になった場合、地域や社会にどのような支援をしてほしいかを教科書や資料を参考に考えられるようにする。</li> </ul> <p>&lt;Cへの手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視し、何も行ってない場合は、具体的な例を示して考えられるように助言を行う。</li> </ul> <p>・記入できたら、QRコードを読み取るよう指示する。</p>
	認知症について	<p>3 認知症事例DVD「スーパーマーケット編」の悪い対応(5分)をみて、事例のどんな対応がよくなかったか、また望ましい対応を付箋に記入する。(3分)</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後ろから声をかけているから、目を見て声かけする。</li> <li>怒った口調ではなく、穏やかに話す。</li> </ul>	
	認知症の方への介助	<p>4 グループで記入した付箋を分類し、望ましい対応法を考え(5分)、発表する(9分)。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の話を聞きながら、提案をする。</li> <li>高齢者の反応をみながら声かけをする。</li> </ul>	
		<p>5 高齢者とかかわっていく中で、高校生としてできることを考える。(4分)</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自尊心を傷つけない声かけをする。</li> <li>ボランティアに参加する。</li> </ul>	
		<p>6 Mentimeter に高校生としてできることのキーワードを1つ以上入力し、クラスの意見を共有する。(4分)</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア</li> <li>認知症サポーター養成講座</li> <li>コミュニケーション</li> </ul>	
まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめを記入し、自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域社会で高齢者とかかわる際に活かせるように指導する。</li> </ul>

工夫している点

<ul style="list-style-type: none"> <li>DVD視聴、実物投影機を使用し、視覚的にも分かりやすく、クラスで内容を共有できるようにした。</li> <li>KJ法を用いることで、グループ活動で発言が苦手な生徒の意見が反映できるようにした。</li> <li>Forms や Mentimeter を使用することで、クラスの意見やアンケート結果を瞬時に共有でき、意欲的に参加できるようにした。</li> </ul>
---

実践後の評価結果（評価規準）

	学習活動における 具体的評価規準（B）	「十分満足できる」と 判断される状況（A）	「努力を要する」と 判断される状況（C）
	○評価規準 【思考・判断・表現】—⑤ ・高齢者の気持ちを考えた関わり方について考えている。	・高齢者の気持ちだけでなく、自分自身が高齢期になったときのことを考えている。	・高齢者の気持ちを考えた関わり方について考えていない。
生徒の状況	・認知症の方に限らず、高齢者と話すときは、その方を尊重することを考えている。	・認知症の方への対応方法だけでなく、自分が認知症になったときのことを考えている。	・高齢者の気持ちを考えたかわり方考えていない。
記述例	・最初から否定せず、高齢者の話をよく聴き、思いを理解してあげる。 ・目線をあわせ、話しやすい雰囲気をつくる。	・私が認知症だったら、意見をすべて否定されたらカッとなってしまおうと思うので、自尊心を傷つけないようにしたい。	・未記入

	学習活動における 具体的評価規準（B）	「十分満足できる」と 判断される状況（A）	「努力を要する」と 判断される状況（C）
	○評価規準 【技能】—① ・高齢者と関わる中で、高校生としてできることをまとめることができる。	・自分自身が高齢期になったときのことを考えている。	・ワークシートに記入しない。
生徒の状況	・高校生として、認知症の方への正しい接し方や、自分ができることを考えている。	・認知症の理解だけでなく、家族、地域に知識を広めることで、住みやすい地域になることに気付いている。	・高校生としてできることをまとめていない。
記述例	・ボランティア活動に参加し、高齢者の方とコミュニケーションをとる。 ・認知症の方は、認知症の自覚があるので、不安を増やさないう、3つの「ない」を意識していきたい。	・認知症のことを周りの人に広めることで、認知症の理解が進めば、自分が認知症になっても住みやすい地域になると思う。	・未記入

授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> <li>・GONetに生徒のスマートフォンを接続し、アンケート・意見集約システムを利用したことで、瞬時にクイズの正解率やクラス意見を共有することができた。加えてDVDの視聴、書画カメラを使用し、スマートな展開になったが、盛りだくさんになってしまい、グループワークの時間が少なかった。グループワークの時間を多くし、生活に落とし込む場面を作る必要があった。</li> <li>・DVDが認知症サポーター養成講座用だったので、高校生には難しかった。先に認知症の対応方法を知ってからではなく、望ましくない事例をみせてから考えさせ、答えを引き出した方がよかった。</li> <li>・全体的に楽しく活動はできたが、「高校生としてできること」の記述が、最初の高齢者の対応方法と同じになってしまい、キーワードなどヒントを与えても良かった。</li> </ul>
--